女子青年界第十四巻第二號（毎月一回一日發行）
大正六年二月一日發行　大正六年一月二十八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十四巻
二月號

學生號

要目

女子青年界第十四卷第二號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume (XIV) February 1917 Number 2.

女子青年界

第十四巻第二號

二月號

大正六年二月一日發行

汝の若き日に汝の造主を記えよ。即ち惡しき日の來り、年のよりて我は早や何にも樂しむ所なしといふに至らざる前、又日や光や月や星の暗くならざる前、雨の後に雲の返らざる中に汝然かせよ。

傳道書十二ノ一――二

人の若き時に軛を負ふは善し。

哀歌三ノ二十七

神よ、なんぢの法を敎へらるゝ人は幸なるかな、かゝる人は、わざはひの日より逃れしめ給はん。

詩篇九十四ノ十三

わが子よ事の全體の歸する所を聽くべし、曰く神を畏れその誡命を守れ、是はすべての人の本分なり。

傳道書十二ノ十三

會説

信徒學生間の活動

河井道子

米國紐育市に留學されし方々は必ず該地の學生青年會の幹事より屢々招待狀を受けられたでせう。其文意は來日曜の夕コロンビヤ大學構内アール館にて夕食を共にし食後何某氏の講話有る故御出でを乞ふと云ふ様な事であります。それから其狀箋と見ると會長はアーミニヤ人某副會長は支那人某會計ポーランド人某書記日本人某などと實に諸國の代表者の名前が連記されてあります。是は學生青年會の外國男女學生の部でありまして、米國留學中成べく基督教の教化を受け四海兄弟の眞意を實現させんが爲設立された團體であります。勿論此發起人は米國の基督信者で彼等が外國人を優遇し留學生に良感化を與へて其本國に歸らしめんとの赤誠の現出したものであります。そして毎日曜の夕、學生等は此アール館に夕食の饗を受けます。是は學生中の資金乏しくして充分に滋養物を攝取する事の出來ぬ者、或は家庭の暖かさを感ぜざる下宿に在る者、又は異國にて全く同國人に逢ふ機會の無き者が、茲に集り和氣靄々たる中に立派なる食事を受くるのであります。さらば其資金は何處より得るかと云ふに、皆外國傳道に熱心なる基督教信徒の寄附に依て成立して居るのであります。斯る次第で毎回少なくとも四五十名は此處に會食し親睦するのであつて、時には食前に日本人の聖書研究會、露西亞人の聖書研究會、支那人の求

道會等の小會が諸處に開かれて知名の教授又牧師等之を指導して居ることもあります。食後に又全體に對し有名なる諸先生方の感話奬勵等があります。例へばコロンビヤ大學總長とか、外國大使とか、諸大學の教授等が屢々其處に臨み、又時には經濟學者、實業家、政治家等が見えて、各自の意見を述べ。世界全國の親善を圖るには、諸方面に於て學生に望みを囑するより外に道なしなどと講話されます。某日其食卓に一人の如何にも物悲げなる容貌で衣服も粗末な一青年か見えました。後にて聞けば彼はアーミニヤ人で兩親、親族殆んど殺戮され、自身は漸く其場を逃れて米國に落ち延び來りしものでありましたが、上陸後何處を頼らむ術もなく、先づ青年會の學生部に來り、事の顚末を告げしに、來る日曜日の夕此外國留學生倶樂部に出席せられよとの招待を受けて其處に來りし次第でありました。處が圖らずも其場にて自分の從弟に遭遇し、互に人目も憚らず飛び付いて泣きました。本國に於て有りと有らゆる慘事を嘗め盡し、異郷にて頼る人もなしと思ふ場合に、骨肉に逢遇し得たといふのも、全く如斯外國人を優遇する機關がある故であると、彼は深く青年會に感謝の意を表したとの事であります。此類の話は珍らしくないと申します。日本の留學生でさへコロンビヤ大學のみにても二三十名に餘るといふのですけれども、紐育市全體から云はゞ其數優に五六十に上るかと思ひます。彼等は又此倶樂部にて圖らず舊友に逢ふ事が往々あるとの事にて、或は此經驗を經た人も皆樣の中には御座いませう。平時ならば英、佛、獨、諸國よりの學生も、元より多數なる事なれども戰時に於ては、稀に數名の佛人や英國人がある位であります。然しアーミニヤ、スイツランド、ポーランド、バルカン、日本、支那、印度よりの學生が大多數を占め、ノーウエー、スエデン、フインランドよりの者が少數交つて居ります。抑々人間と云ふものは相知るに從つて敵視の念は薄らぐ者であります。誤解、憎惡、敵愾心等皆親しからざるより起るもの

で、其反對に同情親愛友誼等は交はるに依て起る賜であります。其れ故に、平素は外國人と思ふ人々とでも、親交するに從ひお互に人類は神の家族であるといふ意味を味ふ樣になります。若し將來國家の樞要の位置を占むる準備を爲しつゝある學生にして、相互に知り合ひ助け合ひ同情し合ふといふ事になれば、必ず公私の區別なく眞個の平和と友情は增進するものであります。之を來さんとするには、如何しても基督の御命令通り第一に神を愛し次に己の如く隣人を愛するの精神を鼓吹しなくてはなりません。此點に着目して出來たのが即ち以上申上げた倶樂部の本旨であります。それが學生靑年會の目的であり又それが萬國基督敎學生同盟會の眞髓であります。扨我々神を愛し人を愛すと輕々しく口に申しますが愛の根底は唯言葉ではありません。即ち何物かを與へんとする犧牲の結晶であります。勿論手近き人々に愛を與へ犧牲の精神を示す事は容易であつても、萬國などと申す大いなる言葉を使用する時、扨如何に我々が人を愛する心を具體的に表出し得るやと反問さるゝ姉妹方もありませう。我々は此塲合來る二月廿五日の萬國學生祈禱日を好く守り此日に於て眞心籠めたる祈禱を神に捧ぐるは我々の責任で御座いませう。然し祈禱は好くされても無意味に時間を費す如き元より取らざる處で祈る其事柄を皆明瞭に知つて居らねばなりません。諸子は英國の大學に男性の數が益々少なく、在學生は外國人か虛弱なる者か或は婦人であります。又獨逸、佛國に於ては大學及高等學校は殆んど閉鎖され、丁年に達せざる者さへ出軍し、廣き校舍は病院となり、美はしき校園は田畑と變化しつゝあるを御存じですか。又中立國スイツランドにはバルカン諸州の學生が饑餓に瀕し、大學にて彼等に食物を供給して居ますが、其資金は多く又自國の學生等の犧牲に依る事を御存じですか又同國は交戰國よりどし／＼傷病兵を送つて來ますので、其世話を男女學生が協力してなして居るのを御存じですか。又露西亞に於ける男女學生が如何に

貧困と戰ひ避難者を助け、信仰の自由を得んと努力するかを御存じですか。又米國の學生のみにて二萬五千圓の金を降誕節迄に作り、交戰國の俘虜の教育慰籍費に宛て、尚其後引續き献金募集中なる事を御存じですか。或は米國の青年會が數十名の働き人を交戰國に送り、捕虜の收容さるゝ地に於て堀立小屋を作り、其處にて氣の毒なる俘虜に傳道し教育し、或は慰籍しつゝあるを御存じですか、又今日四千三百萬の人が戰ひ、三百七十萬の壯年青年少年が殺され、五百萬の人が病院に在り、其れ以上の數が不具となり六百萬の俘虜が露西亞、獨逸、墺國、西比利亞等にあるを御存じですか、若し此六百萬の人々が八人づゝ並んで通行するとせば其行列が三四週間かかると云ふのであります。是等の俘虜を啻に慰籍し保護するに止まらず、尚當局者の許可を得て、彼等の間に學校的教授をなす其働は主として基督教學生同盟會の仕事であります。

最後に皆様は斯る恐ろしき戰爭中に、歐洲諸國の青年男女が如何に宗教心を高潮せしめ、眞面目に人生の問題を講究し、犧牲的に他人の爲め金錢、時間、の勞力等を惜しまず使用して居るかを御存じですか彼等の信仰は即ち歐洲は今日戰亂の中に在るとは云へ、互に奉仕の其精神を以て己れを忘れんには必ずや戰後に於ける憎惡の念は消滅するに至らんといふに在ります。此の理想は基督教以外の人々には一笑に付すべき誇張の言に過ぎずとされるかも知れませんが、我等信者は確かに愛と其奉仕は惡に打ち勝つものなりと信じて、凡の困難の中にも喜びをなして失望しないで進むべきであります。其故我々日本の學生は男女老若を問はずして、皆此二月廿五日の祈禱日を守り、我等も萬國の學生と共に苦しみ共に働きて世界の平和に與りたいものであります。今や學生同盟會に屬する國は四十に近く會員總數廿萬であります。是等は大學、高等學校、專門學校等のみの會員數でありますが、中學校、女學校等を含むとせば、其は大したものであります。日本の青年會々員

各自は此大團體に連續されてある事を忘れてはなりません。同時に其責任の重大なる事を考へ、來る二月廿五日の祈禱日には新聞雜誌等にて材料を充分に集め目的を定めたる祈禱を捧げられん事を願ひます尚當日迄に各支部に宛て、祈禱の趣意書を送附致しますが、若し個人にして志望の方は本部迄御通知あらん事を願ひます。

特に我々の祈禱の題目とすべき事項は支那其他より日本に來る留學生を慰籍奬勵して、良感化を與へん事であります。目下支那留學生約三千。朝鮮留學生五百。臺灣學生二百五十。其他少數の各國留學生があります。幸にも彼等優遇の途が大正四年に男子青年會學生部にて開かれ、追々宗教家教育家の注意を惹起して、同情者も増加しつゝあるは感謝すべき事であります。此當事者丸山傳太郎氏は永年支那内地にて支那人間に傳道をされし經驗を有せられますから、此上なき指導者を得たと又感謝せねばなりませぬ。我女子青年會にても外國女學生殊に支那よりの姉妹には是非とも親睦を圖りたい希望であります。五年程以前には此事に着手して陳女史を其係員として、約一ヶ年間東京に留學の支那女學生と友誼を厚うするの機關がありましたが、陳氏永眠後は其も杜絶して居ります。然し東京女子青年會では時々市内の留學生の集會が昨年より催され、本年一月四日には彼等の新年會を開き、女子大學麻生先生の席話があり、二十餘名の來會者がありました。今度は隣國姉妹等を尚一層優待して、基督教的感化を個人團體になりたいものであり、又然なすが我等一同の責任であります。彼等が本國に歸り徒に日本女學生の華奢輕薄な點や、日本婦人の虚榮利己の缺點のみを眞似たり、或は智識學術に熱中して敬神德義を無視するに至らば、我等に罪なしとは申されませぬ。

若し皆樣の學校に東洋留學生があらば、必らず彼等を慰籍奬勵し、風俗習慣を異にする外國人中に起居するに同情して、時には己が家に招くとか、共に散歩をするとか、親切に買物の世話をなすとかして

信者の責任を全ふして戴たい。然し是のみでは誰でも盡力するが至當であります故、信徒は彼等の靈性の基督に依りて救はれ、彼等の家庭が救はれ社會が救はるゝ様に熱禱を神に捧げられる任にある事を御記憶されん事を願ひます。私共は今日米國の學生の様に幾十萬圓を歐洲に贈るなどは到底及ぶことでないとしても、此手近い支那朝鮮留學生のため、力を盡すこと、祈る事は、米人等より遥に務むべき事、又可能の事と信じます。二月の定期祈禱日には誰か支那朝鮮印度等の事情に精通されし信者に御講話を依頼さるゝも結構ではありますまいか。何卒當日を意味深き日とせられんをお願ひ申上げます。

渡米婦人は成功しつゝありや（五）

河井道子

今回は在米同胞姉妹中の學生の有様を概述します是は太平洋沿岸と限る事ではありませんが、如何にしても此地邊に一番多數の日本人があつて又未婚女子もありますから、勢其邊の話になりませう。今より十年程以前には未婚日本婦人も渡米は自由でありましたが、彼紳士條約が成立しまして以來は、制限が嚴くなりました。若しも親が既に在米して其子女を召寄ると申す場合ならば勿論女も自由に行けます。又學資の途の付て居る女子も渡米は容易に出來ますが、見習にとか、女中にとか、勞働の範圍格にある職業のためならば、絶對的に出來ません。是を知らずして、只親戚があるとか友人等が居るとかで

は旅行免狀は下りません。然るに何々を研究するの何學校に入學すると申立て、免狀を得て渡米し、彼地で奉公してゐる者も少數ではありますまい。是は本人が決して僞を申すとのみの斷定は下されません。實際に何科を修學する目的、何校に入學を切望して居ましても、日本とは費用の點に大差があるので、其資金を得る迄か、或は得つゝ女中をしてゐる青年女子は咎むべき處が、却て或る場合には其精神と奮勵とに滿腔の同情と敬意とを表すべきであります。扨此種の働きつゝ通學する苦學生は大概朝夕家事の手傳をして、中學校や大學に行くのであります。男子には此スクールボイ（學生の意でなく、書生する意に用ゆ）をして學校へ行く者は加州などには大勢なものです。女子は數も全體から尠いのに、其上學校に行く位の未婚者が極小數ですからスクールガール（苦學生）になるのも從つて僅であります。此書生の制度や便宜は米國の東部には殆ど稀で、大概は西部や太平洋沿岸地に御座います。其ならば、此便宜を受けて勉學する日本女子は果して成功するかとの質問になりますと、個人の熱誠忍耐に身體健全で、意志堅固が加はれば成功しますと答へることが出來ます。

奉公とは申せ、日本の奉公とは大違で、時間に制限をつけ、朝食の世話を終れば、九時迄に登校が出來るし、午後放課後、緩々四時頃に歸宅して夕食の手傳をし、後仕末が濟めば、夜は自由に勉強が出來るので、是位の働に對して、食事と室とを與へられ、小使も幾分か得ると申すのですから、日本で自分の家より通學する時の方が却て苦しい位かと思はれます。萬一主人や主婦が不親切であると、なかなか苦勞も致しますし、不注意や無頓着な家庭ですと、使はれる者が我儘に陷り易く贅澤の眞似をして學問は不出來になります。餘りの過勞と、心配とがあれば、健康を害しますは自然の事であり、加之忍耐力が消滅して仕舞ひ、精神的墮落を來たします。其反對に餘り暇過たり、主婦が親切過たりします

と、我儘になつて、己が分限を忘れ。誤解を招き過失を重ぬる等の失敗が起ります。斯くなりますと、一軒の家庭に永らく働く事が嫌になり、轉々住居を變更ますから氣が落付かず、薄情に慣れて參りますやうです。働きながら勉學せんとせば男女を問はず、忍耐と報恩の念が第一に必要です。其故に雇主の方で少位の小言や、無理があるとしても、先方に同情すべきではありますまいか。何故と言へば、最初英語は出來ず、事情に通ぜず、料理の心得、西洋室の掃除の仕方も何も知らぬ者を雇ひ、是を仕込み、餘暇を充分に與へて通學の出來る樣、又歸宅してからも語學の手傳などして呉るゝ丈の親切を思へば、無闇と自分の利益のみを申立てゝ、やれ學校が遠すぎるの、客があり過ぎるの、子供が八釜しいの主婦が面倒な人物だのと、不平や不足を並べて、直に他家に宿替をするなどは、當然其當人の不成功を表現して居ります。是の惡癖は男女學生を問はず、學生たらざる者にも、共通に屢々見えるのはお互に注意して矯正さねばなりません、或は是も歐米僕婢の習慣を見習ての事かも知れませんけれど、日本古來の忠誠の精神は外國に働いても、主僕師弟の間には保存せしめたいものです。若學問に志す女子にして常に宿替をして、氣儘になり、只樂をのみ願ふ如きならば苦學生としては成功は出來ません。國の内外を問はず、資金乏くして勉學をなし身體も壯健を保ち、精神も向上すると云ふ如き婦人は非凡の人であります。私は無闇と苦學々々と云ふて自身の平凡なるのも氣付かず、身體の虛弱を意とせず、敬神の念なく、只他人を羨望する如き女子が上京したり、渡米したりしたとて其は失敗に終ると斷言致すのを憚りません。

「宅に日本の娘で中學校に行く者を奉公させましたが最初は柔順で、何でも整然としましたが、追々不注意になり、怒易く、時間など守らなくなりました。何時も學校からは四時に歸宅する約束が、段々五時、五時半、六時となり到底食事の手傳など出來

ません、其が終には外から電話を掛けて今夜は七時でなくば歸らぬ、九時迄に歸るなど勝手な事ばかり申しまして仕末に困入りました。私は彼女は外國に來て親も居ないし、勉强したいと云ふ其志を感心して、世話してやりたいと思ひますが、私には監督も出來ませんので、暇をやりました。多分米國の自由と云ふ事を誤解して、何でも好き次第なことをするが自由と思ふ様になつたのでしよう。夜分は男の友達と活動にでも行くのでしよう。將來の事を思ふと氣の毒で……」とは加州某地で米婦人が私に訴へた言葉であります。

然し感心な女學生も御座います。是は少し昔の事ですが、日本から十七歳とかで渡米し、子守をして居ます中に、如何にも親切で、注意深く、勞力を厭はぬのを主人に見込まれて、彼女は其家より學校にやられ、後に幼稚園の保姆となり米國で立派にして行つたと申す實話も聞きました。成功不成功は本人の氣立と、忠實とに外なりません。時々私の机上に若き方々よりの書面が澤山積りますが、度々渡米して學校に行く途を講じくれとの依賴書で、一面識もなく、其人の性格も知らないで、其様な御世話が輕々しく出來るものでないと存じます。只學問丈が御望の方ならば寧ろ日本で勉學される方が經濟で安全と御返事申上げます。次回には普通の女學生の事を記載致しましよう。



女學生に對する希望

日本女子青年會委員長　井深花子

女學生の方々に對して私の最も希望する事はもつと向上心を持つて戴きたいと云ふ事であります。啻に人格の方面のみならず智育の方面に於てももつと向上發展して戴きたい、なぜかといふに斯うして學校に於て勉强して居りますが過半數は家庭の人となるのであります。そして一度家庭に入つて仕舞ふと今迄學びました學科は忘れて仕舞つて實生活とは何等の交渉のないことになることが多數であります。科學方程式とか幾何とかいふ物を生涯暗誦して居らるゝものではありませんが、それでも其精神丈けでも覺えて居て何かの時に應用して戴きたい。多數の人は學校を出ると直に忘れて仕舞つて「英語や科學はもうすつかり忘れて仕舞ひました」など云つて居ります。卒業生の方々などからさへも屢々聞きます。又或人は、「英語などよりも裁縫とか料理とかをもつと習つて置けばよかつた」などと後悔して居るといふことも聞きます。此等の人々は趣味の向上とか學術の攻究とかに資する智育の方面の學科を自分がアプリシエート爲ない故に、人にも之を表す事が出來ないのであります。折角學校で學んだ事も何の役にも立たない氣の毒な人達であります。又時には學んだ事を活かして働いて居る人を見掛けますが、中には非常な不健全な思想の感化を受けて居る人があります。私共教育者が夢にも思はなかつた結果を來して居るので驚く事があります。畢竟我々の努力は皆水泡に歸して仕舞つて何等役に立たないの

と、其結果は現はれるが非常に不健全な有様となつて現はれて來るのと二つありまして共に大に心配しなければならない事であります。

私が第一に皆樣に希望する事は健固な思想を持つて戴きたい事でありまして。此健全な思想を以て世の中の正邪善惡の判斷を付けて戴きたい。今日不健全な思想の導火線ともいふべきものになつて居るものは、人々の我儘といふ事であります。他の事などは一切お構なしに只自分の勝手のよい事のみを求める。境遇が惡いとか社會が自分をいれて吳れないとか云つて不平を懷いて居る。不滿足の結果は煩悶となつて世の中を悲觀するか自暴自棄に陷る。今の學生に煩悶といふ事を屢々聞きますが實に嘆はしき事であります。私は餘程以前に橫濱で自分の境遇を悲觀した結果、自殺した若き婦人の事を聞きましたが、其人は自分の友達等が無事に女學校を卒業するに反して、自分は親を補助せねばならぬ故に學校も中途で止めて會社へ出て働かねばならぬといふ樣な事から、世の中を悲觀したのでありますが、此人などは自分の事のみしか考へて居ないと見るより外は有りません。親を補助しなければならないといふのは親補を助せねばならぬ重要な境遇に居るのではありませんか。それを自殺するなどとは以ての外です。親を養ふべき自分が死ねば、後に殘つた親が如何程困るかといふ事を丸で考へて居ないのであります。極めて我儘な道德的常規より脫して居るのであります。斯る人の口にする處は如何なる事であるかといふに、身分や名譽を重んじて自制して世を送る人を視て捉はれたる生活とか、或は結婚をして數年の後に愛が冷めても尙同棲して居るのは虛僞の生活だとか、成程其の言ふ所は表面には一寸立派にも聞えませうが、其の內實は誠に放埒な氣儘な生活を慕ふのだと思ひます。私は今日の青年諸子に是非覺へて居て戴き度い事は「自制は如何に立派な人格を造るか」と云ふ事であります。自制と申しましても人權を無視されたり、壓制を加へられたり致しまして

も、是非とも之を忍べといふのではありません。正當と認めた事は進んで反對し忠告するも宜しからう、只自己の爲すべき事はなし、爲すべからざる事は如何に苦しくともなさないといふ心をもつて、自分の私慾私情を制するのであります。此自制の出來ない人は極めて、意志の薄弱な人となり、義理人情を辨へぬ人面獸心の人と化するのであります。虚僞の生活とか、捉はれた思想とか、自由とか、解放とか騒ぎましても人間社會に住む以上は、私利私慾を恣にして他人の迷惑は一向顧みないといふのでは決して幸福は得られるものではないと思ひます。斯の如きは決して自由でも解放でもなく放縱な自墮落な生活であります。斯る不健全な思想が世間に漲つて居るのは實に慨はしき事であります。之を救ひ出すには如何しても宗教の力を藉らなければなりません。私共が基督の御生涯を研究して見ると、現代人が今遇つて居る試練は盡く基督が受けて居られます。神の子ながら人間の體を具へて此世に居られた間は人間としての修養は凡て經驗して居られました。第一ヨハネから洗禮を受けられた事でもさうです。神の子である基督は人間である約翰などから洗禮を受ける要はない様に思はれますが、基督は人として爲すべき事は凡て之を重んじて爲し給ふた。又四十日間野に於ける試練でも其通りで、此試練をよく調べて見ると、第一肉體の慾に關する試練があります、基督が食を採らずして饑餓を覺えられた時に惡魔は來りて「石を取りて、パンと爲せ」と申しました、基督は直に「人はパンのみにて生くる者に非ず」との言葉をもて惡魔を斥けられた。今日世の中の人は隨分此生活慾の爲めに人道から踏み外れた行爲をして居る者があります。神子たる基督には石をパンと爲す事は出來ない事ではなかつたでせう。然し彼は必要なる正當なる場合の外は神から與へられたる智慧をお使ひにならなかつた。如何に餓いたとて正しからざる水は飲まず、況して衣食住に不足なき者が僅かばかりの私利私慾に驅られて、非道な

事、正道を外れた事を平然として致すことは實に慨はしい事であります。

第二には惡魔が基督を殿の頂上に連れ行き其處より飛び下りて見よと申しました、之は能力才智に關する試練でありまして、私共なら己が智を恃み、或は有りもせぬ技倆を人に示さうなどとするのが普通でありますが、基督は有り餘る智慧も爲すべからざる事には決してお使ひになりませんでした。例へ巨萬の富で誘はれても爲すべからざる事には決して神より與へられたる才能を無駄にお費しにならないのであります。

第三の試練は基督の虚榮心に訴へたのであります。惡魔は「己を一度拜さば汝を王とし全ての物は盡く汝の物として與へん」といふたのでした、基督は直に聖書の言葉には「主たる汝の神をのみを王とし之を拜すべし」と記されたり汝如き惡魔を拜するなどとは以ての外なりといつて直に之を斥けられた。惡魔は如何なる形を以て基督に現はれたかは知りませぬが、此の誘は實に危い誘であつたと思ひます。基督にして御自分の御心次第では或は此世の王としてタビデの位に上る事は容易であつたでせう。然し彼は御自身の使命を良く考へて居られて、如何に巧に誘ふ共是等の聲には決して耳をお藉しにならなかつたのであります。

此等主の受けさせられた試練を研究して見ますと、形は種々に異なりますが、意味は現代に我々に來る試練が凡て含まれてあります。基督は盡く是等の試練に打ち勝たれたのであります。此基督に我々が日々從つて世を送りますならば、決して常規を外れる恐れは無いのであります。

又人は獻身の精神が非常に大切であります、世の中の偉大なる仕事は凡て獻身犧牲の精神に依つて成就されたものです。獻身の好模範は基督であつて、「我は人を使ふ爲めに世に來りしに非ず人に使はれん爲めなり」(馬可一〇―四五)といふてあります。然も獻身の極は十字架であります。此十字架に懸り

給ふた正義の勝利者たる基督に從つて、如何なる誘惑に出遇つても決して正義正道に外れた事は爲ないといふ程に堅い決心をして戴きたいのであります。

次に考へる事は自己の行爲に對する責任といふ事を重く視て戴きたい。自分は其事を爲しても安全であると思つても、若し自分より意志薄弱な者がそれと同様な行爲をなしたなら危險であると思ふ場合には斷然其事は止めて戴きたい。自分は大丈夫だと思つても、其行爲に依つて及ぼす感化に就ては自分に保證は出來ないのであります。例へば酒を飲む人が自分は酒の爲めに不始末な眞似はしないと申しましても、自分より弱い者不始末を爲兼ない者の奬勵となつて惡感化を及ぼすを思ひました時には、其行爲は非常に無責任であり、且罪であると思ひます。又男女の交際でも自分は考へ深い故大丈夫だと思ひましても、若し若い弱い者の躓となる様な行爲であれば斷然止めて戴きたい。ポーロは「汝等己が事のみを考へず人の事をも考へよ」といふて居ります。又基督は「汝等此幼き者の一人を躓かするは石臼を首に懸られて海の深淵へ沈められん方尚益なるべし」と云はれてゐます。此石臼を首に懸けられて海へ投げ入れらるゝといふのは羅馬の極刑であります。この刑よりも重い刑罰を受けるであらうと云はれたので御座います。此自己の不注意より他人を躓かすといふ事に就て如何に基督が戒められたかが分かります。日本に於ては勿論西洋に於ても男女の交際に就ては嚴しき教があるのですが、近頃の生噛の學問をした者が間違つて解釋をして甚だ危險な行爲を平氣でして居ります。これは西洋人の目にも非常に危險に且つ滑稽に見えるのです。婦人の地位を高め様と勉めて居る私共は、男女間の交際に就ては、昔しよりも一層愼重なる注意を拂ひ、尚一層淸きものと致さなければなりません。それに就ても我々は事々に修養して居られた基督に從ふ事が第一の急務であります。或人は申します「なに基督教だとてあてにはならぬ。新しい女の殺傷事件もあるではないが、彼

等は教會に出入した信者ではあつたではないか」と。この事は度々聞きますが私は之に就て一言申上げたい。何も教會に出入し洗禮を受けたといつても必ずしも本當の信者でない者があります。自己の事のみを思つて人の事を思はない人は信者とは云へない。宗教學校に居たとて青年會に連なつたとて決して油斷は出來ない。世の中の惡風潮は滔々として漲ぎつて居ります。私共は常に嚴なる基督に固く縋がつて居なければなりません。

今日の青年の考は實に不健全です。自由々々と無暗に自由を欲しますが、眞理から離れた自由は放埒に終るが眞の自由は得られない。少しばかり學問が出來かけたり教會へ出入しかけた時が危險なのであります。私共は生半可でなく眞面目に學問なり宗教なりを研究し勉强して生ける基督に從つて正義正道を踏んで此世を渡りたいものであります。

教育と宗教の力

三谷民子

此頃頻りと節操問題に就て世間の人が注意する樣になりまして結構な事と思ひます。女子に少しの過失がありましても矢釜しく云はれますのは、女子の方が男子よりも美しい點が多いと期待されて居ります故に、少しの汚點も目立つのであらうと思ひます。それ故に極僅かな點にも非常に細い注意が必要であります。私が此頃讀みました書物の中に purity of character＝人情の純潔とでも譯しませうか＝と云ふ一文章がありました。純潔は之を例へれば丁度木の葉の上に朝露が日光を受けて鮮かな光を放つ

て居る樣なもので、非常に美はしいと同時に瀟洒なものでありまして、若し微かな風でも之れを散らしたなら再び之れに水をかける事に依つて其元の美に返す事は出來ないのであります。又硝子の上に霜がかゝつて種々の畫を現す時に、一寸掌でそれを拭き取つた後には、もはやそれを元の樣にする事は出來ないのであります。それと同樣に此清淨を一度汚せば何を以ても、元の淸淨に返す事は出來ないものであります。女學生が往々一人旅などを致します時に、思はぬ經驗に逢ふ事があります。一の例を申上げて見ませう。

私の知つて居る一人の女學生が此の冬伊豆の伊東へ旅行致しまして、靈岸島から汽船に乘りました。種々な船客がある中で、見た處から會話の模樣から考へても、其客中で一番氣遣の無さゝうな安心して傍に居られる人格の高さうに見えた人、殊に其人が酒の害を滔々と論じて其中に居た酒の好きさうな青年を說き伏せて居るのを見た時に、尙一層安心致しました。處が一晩の旅でありましたので、船客は各々其處に眠り始めました。フト其學生が氣が付きますと、其紳士が自分の手の上に手を乘せました。で始めは眠つて居た爲め心なく左樣なつたのかと思ひまして、ツット自分の手を引きました。一二分間經ちますと又同じ樣に手を乘せられました。それで其學生は無邪氣な面白い人ですので「あなた何故此樣な處へ手を掛けるのです」と申しましたら其紳士は狼狽へた樣子で「一寸やり場が有りませんでしたから」と答へました。それから「御自分の胸の上が有るじやありませんか」と申しまして其儘起き直り、もう其夜は明ける迄眠らなかつたといふ事であります。これは極最近の一例であります。若し私の知人の學生が意志がそれ程堅固でなかつたならば、如何なる結果を來したでせうかと思つても戰慄すべき事であります。綿羊の姿で來る狼のある事を知らなかつたら危い事であらうと思ひます。さうかと云つて男子は全然恐い者だと思ひ切つて仕舞ふ事も大いな

る間違でありまして、此場合の識別を明かにする事の出來るのは教育と宗教に依つて得らるゝ修養の力のみであらうと思ひます、確固たる信念と引締りたる態度を持して居たならば、大抵の場合安心して世渡りをする事が出來るであらうと思ひます。之を得るの道は再び繰り返して申します教育と宗教の力であります。如何なる教育、如何なる宗教と云ふ事は又議論もありましようが、兎も角此の二ツの者を得たいと云ふ希望は眞面目な心の流れに違ひ御座いませんから此れに滿足を與へてしつかり兩者を若い人達に握らせたいもので御座ひます。

米國の女學生と日本の女學生

岩澤時子

岩澤時子女史は東京普連土女學校卒業後、女子大學に修學され、卒業後米國紐育市カランビヤ大學にて教育部を專攻し、大正五年夏マスターオブアーツの學位を受け、歸朝後普連土女學校に教鞭を執らる。女史は日本女子青年會創立時代よりして深き同情と援助とを本會に與へらるゝ會員の一人にして、教育界宗教界に如斯婦人の指導を待つ事多し。

日本の學生と米國の學生とを比較して第一に感ずる事は日本の學生がもつと無邪氣であつて欲しいと思ふ事であります。米國の學生は一體に滑稽の意味を解するし、又滑稽好きの人々であります。よく米國人が英國人を評して「英國人は滑稽が少ない」と申します。概して米國の人は無邪氣な快活な氣分が多い。殊に日本から行つた人には此點が一入強く感せらるゝのであります。私が日本に歸りましてから

一番に感じました事は、電車の中などで學生の顔色が惡く神經質に見える事であります。日本の學生は米國の學生と比較すると、其生活狀態とか或は就職難とかの爲めに、米國の學生の左程富有な家の子弟でなくとも相當の奮發心さへあれば樂に勉學し就職して行かれるのと比べて不幸な地位に居りますが、さりとても概して一般の學生が顔色が惡く元氣のなさゝうに見える事です。又電車の中などで見掛けます女學生の方に就いて申しますと、女學生が一體に華美に流れて居る樣であります。例へば服裝なども派手〲しく、化粧なども非常に濃くなつて居ます。米國に於ても化粧を爲す人は無いではありませんが、ステーシへ立つ人とか或は特別の場合の外は普通の人は左程濃化粧をする人はないのであります。無暗に濃化粧をするので程經て後に處々班に剝げて居るなどは實に見苦しいと思ひます。近頃の學生は智識の割合に大人て居ります。大人て居ると云ふのを善く解せば考へ深いとも言へませうが、其れと反對に老成して居るのであります。それで活潑で無邪氣であつて欲しいと思ふ女學生が斯く老成して居る其原因は多々ありませうが大別して三とすることが出來ます。

第一、家庭に於ける境遇。第二、交際する近隣の者或は親戚縁者。第三、學校であります。是等は直接に子女に關係あるものでありまして、私の考へでは何れも今日の狀態では健全なる思想を與へる分子が少ないと思ひます。例へば家庭に於ては健康に注意する親もありませう。又遊藝等に心を配る保護者も御座いませうが、其子の思想の傾向は如何なる狀態に在るかを了解して居る親達は少ないと思ひます。直接に子女の敎育の任にある其家庭の兩親の多くが其女子の健康や服裝の事には注意はするでせうが其子の趣味思想は那邊にあるかといふ事を考究して之を當言な方法に導く丈けの力がないのであります。この方面に向つては割合に冷淡であります。家庭に於て決して親は子女を惡く仕樣とは思ひますま

いが、思想を導いてやる親がないのは子供に取つて不幸な事であります。近隣の子女が親しく接近する人にも或は縁者にして其子女に健全なる思想を與へ樣と勉めて居る者は少いので有ます。學校に於ても教師は教へる科目や教授法は研究して參りますが、生徒の思想を導く德育の感化を與へんとする教師は誠に少ない。或時間例へば一時間か二時間の間に教師が用意して來た教材を充分全部の生徒に教へ込むといふ丈けでも大事業であつて、到底大勢の生徒に之を教へる事は出來ません。米國の大きな學校でも此事に就ては餘程研究して居て、大きな組は二組とか三組に分ける樣にして居ます、これは經濟が許さなければ出來ません。斯樣にして其學科でさへ大勢の生徒に一樣に覺え込ませる事は困難でありますのに、況して德育の方面に教師が一樣に良感化を與へるといふのは實に至難の事であります。

斯くの如く家庭に於ても交際する人々の間に於ても、又は學校に於ても、其子弟に健全なる思想を養成するべき指導者がなく又其機會がないといふこと之が一つの方面であります。

もう一つの原因は讀物であります。此頃私は婦人の雜誌を注意して見て居りますが、其中にある小説又はお話といふ樣なものが非常に感傷的なのが多い。若き娘の心を刺戟する樣なのが多い。例へば家庭の悲慘な事や、姑に虐待された嫁とか、進まぬ人と無理に結婚させられるとか、まだ人生の悲慘とか戀愛とか云ふものは分かるべき筈のない單純な頭に雜然と斯ふいふものが入つて來て、無邪氣に活潑にあるべき少女が、嫌に世の中にませた悲觀した樣な考へ染た小娘になつて仕舞ふのが多いのであります。勿論全然小説や雜誌を讀むなと言つて止める事は非常に危險な事であります。何とかして讀んで然るべき本を多く備へ度いと思ひます。これが米國などの少女等と比べて非常な不幸な地位に居る事の一つであります。米國の少女等には適當なストレープックが多數ありまして、必しも道德的な物ばかりでな

く、極普通なお話にも若い人の心を咬る様な感傷的な分子が少ない。私は此點を大に注意しなければならないと思ひます。

第三には女學生一般の氣風が非常に輕薄になつて居ます。これは世界一般がさうでありますから、娘が其影響を受けない譯には行きませぬ。眞個に分かつて居ない事をも一寸其場を胡魔化して置くといふた様なのが多い。實質は兎も角も表面丈けよければそれでよいといふた様な氣風が大分あります。成年に達した人でも「本當の人生の價値」などといふ事を考へて居る人は殆んどなく、只表面上自動車へでも乘つて世の中を派手〱しく送りたいと考へて居る人が大多數であります。畢竟實力なくしくて世間に名を知られたいといふのであります。或女流作家の許へは毎月廿本からの未知の若い娘から手紙が屆いて、それが盡く女優になりたいから手續を知らせて呉れとか、女文士となりたいとかいふのださうで御座います。或女優は弟子お斷りといふ事にしてあるにも拘はらず、弟子の申込は實に多數であると申して居ります。此等の人々は藝術の價値とか抱負とか云ふものを全然知ずに、只無暗に女優になつて花やかな生活をして見たいとか、人氣を一身に集めて見ようとか云ふ只漠然たる虚榮心に捉はれて居るに過ぎないのです。

此間私が讀みました「大正の青年と帝國の前途」と云ふ本の中に「今の青年は愛國とか國家とか云ふ觀念が乏しくなつて居て、利を棄てて義に趣くといふ様な事は殆んど今の青年の中には見られない。今にして此輕薄な氣分を一掃し眞面目主義を重んずる思想に立歸らなければ我帝國の前途の發展は覺束ない」といふ様な事が書いてありました。勿論今日の青年に國家の危機に際して奮然と立つた維新時代の志士の様になれとは望めないが、少なくとも青年男女が今日の世の輕佻な風潮に誘はれない様に導いてやりたいものと思ひます。

或人は申します。「日本だとて決して他國に比して

後ては居ない、彼地に於て新刊の書物は直に日文に譯されて新思想が起れば彼國人よりも我々の方が先にそれを知る事が出來る」と成程他國に起つた新思想を一部の人が書き立てたり、云ひ立てたりして、新しいと思ふ事は、直に善惡に拘はらず我國に輸入されますが、私は之を以て男女學生に健全なる思想を鼓吹する爲めに何等功果があつたとは思ひません。只無暗と新しがる計りで何等進歩はして居ませぬ。寧ろ不健全な分子が多くなつて居るから四五年前と比して却つて退歩して居ると申しても差支はない。畢竟一般の氣風が一時の流行〱にかぶれて居るのであります。例へばタゴールが來れば誰れでも彼れでもタゴール熱に浮かされて、深く其思想に入つて研究しようと云ふのでは無く、たゞ輕佻な考へで流行を追つて居るに過ぎない。それで私は此現代の輕薄な風潮から脫して眞面目な健全なる生涯を送る爲めに、若き讀者諸子に望む事は、どうか何か一つの信念を持つて戴きたいのであります。信念と申しても何々臭い、例へば基督敎臭いとか佛敎臭いとか云ふのが良いといふのではありません。臭いといふのは人から云はれた通りを其儘受賣をするから臭くなるのであつて、其人の實生活には眞個に入つて居ないと思ひます。實際に觸れて居ない信仰は價値ないものであります、此信念は日常の行爲思想の土臺とならねばなりません。故に十六才の人が三十才の人の信仰を持てと云ふのではありません、十六才なら十六才の人の樣な幼稚でも又薄くとも構ひません。其人相當の生活に光明を與へ活氣を添へ動力となる樣な信仰でなければなりません。年齡相當に實生活に觸れた信仰なれば境遇が進むと共に其信仰も進み、少しの困難の爲に信仰を失ふといふやうな事がないと思ひます。其信念を得るのは私は如何にしても基督敎がよいと思ひます。そしてその得た信念を堅める唯一の機關は、何れの學校にも必ず一つ位は設けてある青年會とか矯風會とか修養會とか云ふ樣な會であります。斯る會に連なり互に信仰上の話

をなし、共に奬勵し合ふは實に益のあるもので御座います。然も人は獨で事を爲すよりも多數で一致してなした方が事が進捗します。會をするといふ事に就ては、是非とも組織立つて爲す必要がある。之に依つて我々は協同一致の精神を養ふ事が出來ます。之は道德上非常に價値ある問題であつて諸學校の先生方がもつと此等の會を重く見て戴きたいのであります。生徒の爲して居る事だからよいといつて之を蔑視するのは、教育上甚だ大切なる機を失する者といはねばなりません。學校の聖書や修身で如何程博愛とか慈善とかを敎へましても實生活と結び付けられなければ何の役にも立ちません。學科以外に學生が組織する此等の會合は德育に於て實驗場であります。科學も理窟即ち理論ばかりでは充分でない實驗が必要であると同樣に德育に於ても實驗は極めて大切であります。敎師は此等の會に於て敎場で敎へる事の出來ない事を敎へる事が出來、又生徒の氣質、特性、趣味なども個人〳〵に就て好く看察する事が出來ます、敎師が會員の一人となつて共に會の爲めに働くといふ中に非常な感化を與へることが出來ます。どうぞ學校に於て敎師及生徒諸子が出來る丈け盡力し强き信念を持ち、青年會等の機關を利用して世の風潮に誘はれない樣にしたいと希望する者であります。（文責在記者）

○御年賀狀本會に寄せられたる方々の芳名を掲げて之を謝す。

廣岡淺子氏、出村悌三郎氏、島田三郎氏、三谷民子氏、室原富子氏藤田逸男氏及令夫人、城のぶ子氏、井壽道氏、今淺見三慶氏及令夫人、門倉藤子氏、古澤繁次郎氏、齋藤勇氏、文子氏澁谷君子氏、山本忠興氏、平澤均治氏、成田千代子氏、安東庸子氏、鈴木みよし氏高田せき子氏、高田常代氏、普賢寺篤三郎氏、杉村勇子氏、二京商店、中山商店、吳婦人會、同志社靑年會、傳道女學校靑年會、加藤咲子氏、山野樂器店、勝男館、秀英舍、長谷川武次郎氏、高山初次郎氏、桐華商會、上毛孤兒院、飯島商店、外村義郎氏、松井かつ氏岸倉松氏、及文子氏

關西地方巡廻記（續）

河井道子

十一月廿九日。大阪青年會館にて講演せし後、山下千代子氏に伴はれて同氏の新宅に招待せられたり。逢ふことの嬉しきものは舊友にこそ。人も知らるゝ如く同夫人は瓜生大將の長女にして日露戰爭の際、郎君の御出征中は二人の幼兒を實家に預けられ、夫人は女子英學塾に再び學生生活を送られし事あり。何不足なき若き夫人が再び寄宿舍生活をなして、朝夕の部屋掃除より教場の時間等忙はしき經驗をも常に嘻々として之を樂しまれしは、當時同窓の者の忘れ難き事なるべし。其後良人凱旋せられて神戸に住はれしが、今は大阪に樂しき又忙はしき家庭の主婦として、人々の敬服羨望の中心に立たる。昔に變らぬ暖かき饗應に其夜十二時過ぐる頃までも共に語り共に教へ喜悅と感謝の中に夢を結びぬ。夫人は過ぐる一兩年中に、良人の大病や愛兒を失はれし物語の中にも、普通なれば愁傷悲哀に滿さるゝ場合ながら、是等の試練に遭遇して、尙勇氣を以て前進し厚き同情を他の悲しみにある家庭に灑がるゝなど只敬服の念に滿たされぬ。

卅日。朝八時の禮拜に出でんとて急ぎプール女學校に馳す。靜けき朝の大阪市は又他に知られぬ趣あり。學校の入口にて林あき子氏に出迎はれ直に講堂に行き、一同に講話を許されたり。同校は夙に本會に同情を寄せられ毎年若干金を本會修養會場建築費として寄附されつゝあり。又萬國青年會祈禱週の如き校長の指揮の下に之を眞面目に且つ熱心に守らるゝは我等に取り大奬勵なり。十一時よりウキルミナ女學校の集會に列す。同校も早くより我女子青年會には忠實にして、毎修養會に代表者を出すを怠らず。學校に一室ありて、之を全く青年會の爲めに宛て、此處にて委員會祈禱會を催す事となり居れり。販賣部は全く會員姉妹方の經營に依るものにして、

良心箱なるものを置き自由に品物を買取るの便宜となす。然かも不正なる事なく勘定等の間違ふ事なしと聞けば、玆には活ける教訓を見る心地す。午後又プール女學校に職員方と會し茶菓の饗應を受け相互に奬勵す。同校の牧野、吉本、櫻井、林諸先生方は基督教信徒女教師として、永らく教鞭を執り、世人の知らざる處にて良感化を其子弟に與へつゝあらせらる。目下同校は新校舍建築の協議に忙はしく、同時に勇氣と希望とは各自の顏色に現はれ居たり。本年の秋頃には新校舍の天王寺邊に竣工さるゝ事なるべし。聞くならく大阪市には近時成金等輩出し俄かに大厦高樓を競爭にて新築するに之が爲め技師は忙殺され、從つて適當なる建築師を學校等にて得るは至難なりとぞ。會後中央委員なる廣岡淺子夫人を訪ふ本會に對する注意奬勵等を受け、近き將來に於て再び大阪を訪ひ、工場、實業家等を訪問せん事を約してウヰルミナ女學校に歸る。車夫の「河井」と記したる提燈をさげ居るを見て同姓なる由を語りしに、昔は親類なりしならんと彼の云へば、昔は知らねど今は確かに皆兄弟姉妹なりと我答へて共に哄笑す。ウヰルミナ女學校は車夫に取りて始めてにや度々人々に道を問ひ終に耶蘇學校と聞き「アーあれですか」とて大元氣にて馳せ行く。約束の時間に後るゝ事三十分。門前に櫛田氏の歡迎を受け、同窓會館の大廣間に招ぜらる。深井、鈴木、立花の諸先生方は既に室内中央の大テーブルにて牛鍋の御支度最中なりき。大皿數枚に種々なる野菜、肉等堆かく盛られ、十人廿人位の爲と思はるゝ支度なれば、他の客は何處にぞと問ふに、客は唯我一人なりと聞き又驚くもをかし、されど見るが中に主客五人にて殆んど全部を平らげ、尚茶菓の饗應に與からんとせるに、はや八時となり寄宿生一同隣室に集まりて我を待つとの事に讃美祈禱の後、信仰のすゝめをなし近き内受洗の決心さるゝ姉妹ありやと尋ねし、其處に此處に擧手あり、其數八名と記憶す。多分は降誕祭に受洗されし事なるべし。姉妹方に健全にして心身共に新なる生

涯に入り給ふを願ふもの茲にもあるを忘れ給ふ事勿れ。

卅一日ウヰルミナ女學校の靜けき朝の禮拜に出で其後にて五年生のみに話を許される。此日受持の先生留守なりしかば、其時間埋めに用立ちしは幸ひなりき。午食後深井先生に伴はれて梅花高等女學校に行く。若き讀者は此學校の古き歴史を知られざるべし。東京なる女子大學校長成瀬先生は廿年の昔、茲に子弟を薫陶せられ、又日本に來られし米國女宣敎師の元老とも云はるゝコルビー敎師は、在朝四十年に亘り、大阪最古の宣敎師として、今日に至る迄陰に陽に同校を補佐せられし功勞者にして、殊に基督敎會の大立物とせられし澤山保羅氏は實に同校の創立者なり。今岡山市山陽高等女學校々長上代淑子先生は同校の出身者の一人なり。斯く基督敎及敎育界に關係深き此校も、一時は衰微せしとの世評ありしも、近來又再興の期に進み、生徒の數四百名に近き由、此の校の女子青年會は未だ本部と關係なしと雖も、將來好時期の來らん日には必ず有力なる支部なるを疑はず。目下は若き卒業生二人全責任を帶びて校內青年會の爲めに指揮の任に當りつゝありしは敬服に堪へず。集會後十數名の委員に逢ひ、種々なる協議を經、奬勵をなし成べく多くの代表者を來る修養會に出席させられん事を願ひて後、林あき子氏に伴はれ、靜かなる處にて英學塾出身者なる四名に夕食を招ぜられたり。即ち林あき子、馬場靜子、藤井歌子、櫛田孝子の諸氏なり。食後種々なる物語などし、又友人等に端書など認めて時の過ぐるを忘れ居たりしが爲め、女中等の來りて立退を催促せしも亦興の一つなりき。其夜はプール女學校に一泊す。

十一月一日。午前川口敎會に於て催されし矯風會の年會に出席す。林歌子氏は其會長として愛情と勇氣とに滿てる風姿如何にも人に良感化を與へずんば止まざるの感あり。同地飛田遊廓問題に關し會長と共に會員方の奮鬪振、年會の報告に依りて知り大に感激したり。斯く信徒婦人の勇ましく正義の下に協

力一致して戰ひ給ふを多とせざるを得ず。益々同會の勢力の盛大ならん事を切に祈る。午後一時の汽車ありて京都に行く折あしく雨模様にて比叡の山嵐身を刺す思ひす同志社女學校に到れば、此日は矯風會のバサー當日にて中々の賑ひなり。デントン先生の宅に招せられ、松田道子先生、宮川先生等と會見し集會等の協議をなし、其夜寄宿生一同に紹介され、短かき話を爲す。バサーにて一同疲勞の樣子なれば早く生徒諸氏に別れ教師館に於て人々の訪問を受けたり。

二日。天氣晴朗にして前日の跡を止めず。京都の晩秋の美を殘りなく開展されし心地す。同志社大學附屬の敎會堂にて禮拜す。午後體操場にて講話會を開き、夜は又寄宿生と共に語る。玆にても又牛鍋の御馳走を寄宿舍にて二回受けたり。斯くするが中に自ら委員等に親しみを增し來り若し數日のいとまを得なばなど別れぬ先に時日の短きを嘆つもおかし。

三日。朝又同志社女學校職員生徒一同に講話す。其後平安女學院を訪ひ、校長に伴はれて全校内を參觀し。同校も又今年中に改築して萬事を改善せんの計畫なり、英學塾出身者なる高橋まさ氏此處に敎授たり。此外近年米國より歸朝されし甘粕なべ子女史も敎鞭を執らる。同女史はバッサー大學を卒へて後一ケ年間セントルイ市にて神學を研究され。目下平安女學院及び佐伯先生經營の看護婦學校に英語を敎授の傍ゴルボール夫人を助けて傳道に從事され、元氣に滿ちて活動中なり。多くの働きの中、電話交換手を傳道し慰藉し親睦する程樂しき事はあらじとの御言葉にても同女史の精神は知らる。歸途佐伯小糸夫人を訪問す。同夫人は以前より本部委員の一人にして京都に靑年會支部の設立を希望され、我等働き人に奬勵を與へ給ふ方なり。夫人の令姉は露國大使たる內田子爵夫人にして同志社の出身なれば其令妹又令姪は皆同志社に深き關係を有せらるゝは誰しも知る處なり。佐伯氏夫妻の信仰厚きは又有名なる事にて每朝六時とかに一家は看護婦一同と共に家庭の

禮拜をさるゝとは信徒中にも稀なる模範家庭と云ふを得べし幸ひにも此日午後一時より二時迄看護婦一同に話を許されたるを以て我々は見地を高くし廣くし深くすべきを說き將來は玆にも又女子青年會の支部の設立さるゝ事を希望して同志社女學校に歸る。二時半より專門部生一同に講話をなす。此專門部には他校より專攻の爲め修學せる生徒多くして、從つて宗敎の點に於ては素養淺き姉妹も雜りあるを以て、玆に靑年會委員の活動の餘地は充分にある事を信ず。皆有望の靑年女子なれば只智識にのみ走らず。價値ある生活に入らんには、基督の生命を我生命と爲さんとの慾望の湧き出でん事を信じて疑はず。午後より女子英學塾出身者小泉、高田兩氏に逢ひ、又臺灣よりの歸途船中にて懇意になりし一婦人とも逢ふ其夜は數名の生徒諸氏と共に語り祈り再會を約して別かる。翌朝未明に出立せんと思ひたれば逢ふ人毎に暇乞などす。

四日。朝御所前を馳する頃目前に見ゆる比叡山の彼方に朝日ののぼる書にも書かまほし。京都の古雅優美なる今更いふも愚かなれど、屏立せる山と苔蒸したる松林、神さびし白き築土の東都生活の雜沓に馴れたる身には、知らず〳〵詩的氣分に滿たさる。其日の午後伊勢の山里なる老母を尋ぬ。村人の厚き歡迎は比類もあらじ。

翌五日六日の兩日は疲勞と風邪の心地にて日向坊主の感興を眞似び、むさぐるしき村の子供等を相手に物語をなし、又外國より來りし繪葉書を配かつ。此繪葉書は桑港の日本少女會より美はしき古繪葉書を二枚宛合せて裏表共に繪となしたるカードなれば村の子供等のよろこぶ事は、物事不自由なき都會の子供等の想像だにも及ばざる處。此子供等の禮狀も又他に見ざる處なり。

七日。晝頃母を伴ひ靜岡に向ふ夜十一時迄車中の人たり。其夜は停車場前なる旅館に投ず。

八日。朝早き頃老母は起き出でゝ皇太子殿下を奉送す。老人はまめ〳〵しく年若き者は老耄て七時過

ぎ迄夢路を辿るの人なりき。八時頃井上文子氏訪問され、それより縣立女子師範學校に導かれ、一時間の講話をなす。終りて校長室にて校長と共に食事す午後二時より英和女學校内にて「母の會」を開く知事夫人も出席され、大勢の婦人方に面會す。會終へて同校の女教師方に逢ふに、殆ど全部東京横濱等にて女子青年會員なりしは何よりも嬉しかりき。必ず近き中に好き支部の此地にて建てられん事を祈りつゝ歸途につく。其夜十二時過ぎに下六番町なる自宅に着く滿一ヶ月間の旅行中到る處にて人々の厚意を受け幾分か傳道の應援をなし、四十七回の講話と其他數多の座談を許され。人々よりは多大の奬勵を與へられ敬服すべき人格に接し、有望なる女子青年會員及び同情に富める會友に逢ひ疎遠なりし舊友と又友誼を厚うし無事に歸京し得しは隱れたる處に於て多くの姉妹方の祈禱に依りて受けし祝福なりと信じ感謝を捧げて就床せしは是當に大正五年十二月九日午前一時なりき。

桑港便り

幹事　伊集院秀子

同氏は活水女學校出身、米國ボルチマー市ガウチャカレヂ卒業、歸朝後神戸女學院普連土女學校教授、大正五年より桑港日本女子青年會幹事として働ける方なり。

十二月三日から四日迄二日間ミルバアレと申す桑港より一時間位の所で米人女子青年會幹事の新年會催され申候私は毎度人樣の信仰上の御手傳をせねばならぬ位置に在り乍ら何も出來ず時には同盟本部の事務室に參り朝の禮拜に列り申候。其時間許されず再々參らず殘念に思ひ居りし矢先故今度は思切りタピング、エリスの兩姉に案内されて、土曜日(二日)午後七時頃出掛け申候、着後直ちに、二十人餘の幹事等の歡迎を受け溫かな握手を與られ候、導かるゝ儘に集會の場所へ參れば、半數の人は床に座し他の半數は椅子にかけて大きい切貫の火床に二尺五寸位

長さの丸木を燃しつゝさも心地よささうに居並んで居らるる中に私共も加はりキャンディを舐りながら來年度に於ける青年會の仕事に付相談致し候其キャンディはミスタピングが私共の少女會の有り候節或西洋人の下されし餘りを持參なされたるものにて皆樣の大喜びになり一緒に頂き又有益な話を致し候、日曜日は特別集會有之、此集會程私に致し勇氣を與へた會は全く他に御座なく候、それは紐育幹事養成所の薫陶を受けた方が大多數を占めて居た故と存候左樣な方々の前に參れば私などは實に御恥かしく口も明けられぬ思致し候へ共、皆樣が御上手で思はず一口なりとも話も致して誠に愉快に候、その都度河井氏、ミスマシウ、ミスマクドナルド等の御噂も致し候、ミスタピングは相變らずニコニコで毎日一生懸命に働かれ居候、大谷樣は先頃羅府に參られ正月迄は御歸りなき由何やら心細く存候、ミスエリスも同じく日本から船の入る毎に四五日間は朝も早くから出張なされ近頃は御一緒に桑港の新渡米婦人の宅を訪問し隨分愉快に存候、去年の中秋に當地及或市の各教會より牧師、婦人會々長及婦人會幹事等の三人を代表して出席を乞ひ天使島でミスエリスが御逢ひなされし新渡米婦人を訪問する事に關する相談を致し候、各教會も御承諾なされ婦人會の方々とも訪問致し候へ共彼等が此の不案内な地に參り如何に淋しく暮して居るかを見出して益々訪問の必要を感じ申候、寫眞結婚で參つた彼等に其夫たる人の事を伺ふと十人中の九人までは私の夫は親族の間柄ですとか從弟の中ですとか答へて寫眞結婚で來たと他人より言はれる事を嫌ふ樣子に候間私共よりも出來得る限り彼等の感情を害せぬ樣に努め居候、稀には天使島に於て夫との初對面の話等滑稽に話し聞かせる者も御座候て世の中は樣々だと思ひ居候、訪問致せば大抵の人は英語、裁縫、料理の稽古を望む者多く候へ共目下の處先生を御頼み致すは青年會の經濟立たず十一月よりは只英語の組許り初め申候未だ多くは參らず候へ共皆熱心に勉强致し居候、出來得るなら

ば來年の初頭から裁縫等の組を設け度存候。
七月二十四日に催し候少女會も九月九日及十二月二日に一度宛此所に催し申候九月の時には御話しなされ候通り古繪葉書を持ち寄り其裏に白紙を張附けて六百枚程御送附申候定めて今頃は御手許に届いたなと存候、其日に集りし者は凡そ二十人許で其時次の會には少女の中から委員を擧げる事と相成りミスタピングと相談致して三人程選び申候小池、大澤、寺澤氏の御令孃方一人宛で今度は感謝祭を致す事に定め案內狀等も皆自分で工夫致して其日を指折數へて待ち居候、當日は桑港で實に稀なる嵐と變じ私共案じ居候へ共先づ二十三人も參り候、感謝祭の由來に付き小供の話。赤池先生の『機會』と題し分り易き有益なる話。又ミスタピングの『バリアナ』の面白き話有之終りに餘興に移り丁度四時半頃散會致し候實は子供達は未だ歸へり度ないと申候へ共ミスタピングと私とは其夜六時半の船でミールヴアリに參らねばならぬ矢先漸くの事で歸らせ申候然し後に私共は小供達の無邪氣に微笑せずに居られず顏見合せ申候
次に九月頃から『白銀鏈クラブ』なるものを六七人の少女により初められ候、每金曜日午後五時より六時まで集まり（日本の學校は三時より五時までであり其迄は外出致されず候）讀書、裁縫を致し其席へミスタピング、ミスチラリング又私等も列し何か短かき話等致して極めて有益に過し申候、先頃白國同情會から當青年會からも寄附せられん事を申込み參り候へ共御存知の會故其返答出來ず殘念に存じ候處何も致さずには心苦しく小供達に賴み慰問袋を二ダース作らせ候小供達は皆喜んで作り其內に入れる品物を集めて次の金曜日には全部其事務所迄屆る筈に候
先づ仕事はこれ位に候御存の通六ヶ敷所故每々失望致す事も之有候へ共西洋の女子青年會も同じ御考へで居らるゝ事を伺ひ慰められ申候以後は一層皆樣の御祈の力と神樣の無限の勇氣を仰ぎ出來得る限り働く考に御座候、少女會等も出來る丈彼等と相提携して參り度殊に此米國育ちの少女は日本人のみでも外國人のみでも取扱は困難の樣に見受け候間兩方一緖に力を盡せば必らず好結果のある事を信じ居候、何卒此青年會の為常に御祈に御加へ下さるやう祈上候。

トロントより

在トロント　横澤つぎ子

今日は感謝祭、朝一人の友人に連れられて田舎の方へ自働車で參りました、靜な美しい景色に打たれて歸り感謝祭の御馳走に與りました、大抵學生は歸へりましたが少し殘つて居る人もあり面白く暮して居ります、遲れたのを取返へすのと試驗に追はれて少しも手紙書けませんでした、此休が終ると直ぐ又歷史の怖ろしい試驗があります、又休暇中殘つてる人達の爲遠足や餘興等色々の催があり餘り其から拔けるのも好くないので參る考ですし實に時がないのに困ります、二三日前迄ホームシックを起し友達の爲もありませうが實にあきれる程でした、熟々考へましてホームシックで何の益があるか只自分で自分を悲しくする許り人が散歩に出る時に獨り室に居て日本を思ふは何になるか、誰の罪でもない只自分が不幸を齎すのだと氣附き新らしい光明を見て之に打勝つ事に致しました今は成功しつゝあります、日本の友と離れ悲しく淋しいと一入最大の友なるエス君に行く樣になりますレーガン樣が來られたら此室を見て欲しいと思ひます、此室では隨分神に親しみ色々考へた私には大切な室です。

學校に來て感じた中に女學生達が日本に較べて大層考へ深いのに驚きました又一方に遊ぶ時は子供の樣に成つて遊び少しの嫌み皮肉等はありません、私の一緒に遊んでる人達が然なのかもしれませんが私には皆其樣に見えます、運動を隨分しグニャ／＼して居りませんのに羨やましく思ふ事が度々です、一つ氣になるのは餘り自由過ぎるかといふ事です、自由なのは實に美ましい事ですが師友に對して日本式の目で見ると時々禮儀を缺いてる樣に思はれました男子と女子とが交際する中にも互に嚴格な禮儀のある點も美ましいのです、私に友達三人出來ました三人共善い人で出來る丈の事をして下さいます殊に其

内の一人は私と殆んど同年ですから面白う御座います、二人で双子と申して居ります、日本人だとて少しも隔てる事なくして呉れる事實に意外の樣です、クリスマスにはデンヴァ市に行く筈ですレーガン樣の御友達とミスグリーンの御母樣が御招き下さいました、又舍の學生の御母樣も招いて下さつた人が三人ありまづ五つの招待を受けた譯です、ミセスグリーンの招待をデンヴァからミセスヘイルといふレーガン樣の御友達が持て來て下さいました、フエヤー(旅費)等は心配せずともよいとまで申されました、其翌日私は歷史の試驗を受ける夜でしたので私はフエール(失敗)と間違て何故ミセスヘールは私の試驗を受ける事を知つて居られるのかしらと思ひましたが倘惜かめて綴字を問ひましたらばカーフエヤ(汽車賃)と申されて大笑致しました、此月の當女子青會の雜誌に日本青年會の幼稚園の寫眞が出て居て河井先生も其中に居られ實に驚きました、東京のバザーも大變成功の樣に思はれて嬉しく只物質的のみならず精神的にも感謝して居ります。

只今英語の課外の讀物にキーツやシエレーの詩を讀んで居りますが美くしい詩に打たれます英語を習た御蔭でこんな美しい事を知ると感謝して居ります扨河井先生十月頃仙臺へ御出で下さつたさうで母が喜んで手紙を呉れました、高等女學校の生徒達は大層感じた樣で皆長い手紙を寄せ御樣子を知らせて呉れました、生徒は可愛いものです、中には私の家の近所までわざ〳〵散步に行き秋の樣子をも書いて呉れます、生徒からの手紙は讀むに一時間も取る事があります、友人達は面白がり日本字の手紙を方々へ持て行ては皆に見せます、今夜の十一時、實に靜かです、私の室から町の光が見て山々の頂の雪が目の淡光で見えます、何ともいへぬ美しさで今日本の人達は何をして居られるかしらと懷しく思ひます。

(十一月三十日發信)

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334.



◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種

東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

不思議な子供

袖山愛子譯

ベツレヘムの城門際に甲冑に身を堅め腰に短劍を下げ手に長き槍を持つた一人のローマの番兵が仁王然と立つて居ります。彼は終日鐵で拵へた人の樣に殆んど直立不動の姿勢をかへたことはないのであります。市民等が城門を出入したり、物乞等が凱旋門の陰に倚りかゝつたり、菓物賣や葡萄酒賣が籠や、瓶を、其番兵の傍に下ろして、休んだりしても彼は一向振向いてさへも見ません。彼は其の心の中に斯う云ひたいと思つて居る樣に見えます。「此樣なものは見るべき價値のないものである。油壺や、酒瓶を荷つて歩く樣な者共や、勞働者や物賣に何の用がある。私は只敵と戰ふべき軍備をすればよいのである。騎兵隊の歩兵等を其馬の蹄にかけるのを見ればよいのである。勇敢な兵士が包圍された市の城壁を攀ち登るのを見ればよいのである。私の目を喜ばしめるものは戰爭の外に何にもない。私の見たいものは鷲の印の付いたローマの軍旗が空中に閃めく光景や、劉喨たる喇叭の響き燦めく銃劍、迸る鮮血。」

市の門外の彼方は美しい牧場になつて居て、百合の花が一杯に咲き亂れて居ります。番兵は毎日〳〵牧場を眺め暮して居りましたが然し一分間と雖も彼は決して取り〳〵に粧裝美はしい此花の美に憧憬れた事はありません、時に往來の人が立止まつて百合の花を賞美して居るのを見かけますと、彼は其心に「何だつて、彼樣なつまらない物を見て居るのだらう閑つぶしな。道が遲くなるだらうに」と思つて不思議な感に打たれるのが慣例でした。

彼は斯樣に考へてから後は青々として艶のある綠の野邊もベツレヘムの市外に茂つて居る橄欖樹の林にも目をくれませんで、唯遠く炎熱燒ける砂漠の中を兵士等が長い隊伍を整へて前進して來るのを夢想して居ました。

毎日〱同じ場所に立つて番をして居りますので彼はその傍で餘念なく遊んで居る美しい子供等をよく看察する事が出來ました。然し彼は花に對して持つたと同じ樣な態度で、子供等を見ても更に何等の感興も湧き出ませんでした。却て子供等の遊戲を眺めて微笑んで居る人を見ますと、『一體何にが面白いのだらう、人間といふものはつまらない事を喜ぶものだなア』と彼の不思議心を唆る位が落でした。

或日の事、番兵は何時もの樣に同じ場所に立つて居りますと三歲位の小さい男の兒が牧場へ遊びに參りました。其の兒は貧しい家の子供らしく粗末な羊裘を着て居て、唯一人で遊んで居ました。番兵は見るともなしに其子供を見守つて居りましたが、先づ第一に彼の目を驚かした事は其子供が非常に身輕に草の葉に足先がつくかつかないと思はれるほど輕々と走り廻つて居る事でした。それから彼は其の兒の遊びを見て益々驚いて獨言。

『眞個に他の子供の樣ぢやない。一體何をして遊んで居るのだらう』

其子は僅か數歩しか離れて居ない處で遊んで居ますので、何をして居るかがよく分かりました。其の子供は手を延ばして飛ぶ事も出來ない程花粉を付けて花の端に止まつて居る蜂を捕へるのに一生懸命になつて居るのでした。驚いた事には蜂は少しも逃げようとする氣色なく子供の爲すが儘に刺さうともしないでぢつと爲て居ます。其の兒は樂々と指先で蜂を捕へますと、急いで城壁の破目に掛つて居る蜂の巢の處へ持つて行つて其蜂を置いてやりました。斯うして一疋の蜂を助けますと、また直に引返して他の蜂も同じ樣にして一つ〱助けてやりました。番兵は子供が蜂を捕へては其巢に連れて行つてやるのを見て居ました。そして思ひました。

『此兒は今まで見た子供等の中で一番馬鹿者だ。蜂を助けて如何しやうといふのだらう、此兒が助けてやらないだつて、蜂は自身でどうでもする事が出來るぢやないか。何時か刺されるのも知らないで、馬

鹿な兒だ。これが今に大きくなつたらどんな者になるだらう。」

其兒は毎日〳〵來ては牧場で遊んで居ました。番兵は其子供の遊びを見て居て、どうも不思議がらないでは居られませんでした。

「眞實に不思議だ。」と番兵は思ひ續けました、私はかうして毎日〳〵見張りをして、もう丸三年にもなるが、面白いと思つたのは此兒計りだ」

然し、番兵は決して其兒を喜んだのではありません、全くそれと反對に嫌つたのでした、番兵は其兒を見て、思ひ出したことは昔の預言者の恐ろしい預言でした。其預言と申すのは何時かは『此世に平和な時が來て、一千年の間は血を流す樣な事もなければ戰爭もなく人々は互に兄弟姉妹のやうに睦み親しみ合ふやうになる」といふのでした。番兵はそれと其の兒のすることを思ひ合せて、何物よりも嫌がつて居た其平和が眞實に來たのではあるまいかと思つた時に、全身に惡寒を覺へて持つて居た槍を思はず堅く握り締めました。

番兵は其子供を見れば見る程、一千年間の平和時代を聯想せずには居られません。彼は既に其時代が來た事を恐れたのではありませんが、只何物よりも厭な其時代を思ひ出すのが嫌でした。

或日、子供が美しい牧場の花の中で遊んで居りました時に、俄に夕立が降つてまゐりました。篠突く樣な大粒の雨が、弱々しい百合の花に打ちつけるのを心配さうな顔で見て居りました。其兒はやがて走つて行つて花の中でも一番大きな美しいのに花冠を支へて居る莖を地の方を向け花の盃に雨が當たらない樣にしてやりました。一の花がすみますと次から次の花と順々に行つて、同じ樣に花の盃を皆地の方へ向けて仕舞ました。

番兵は子供の爲た事を見て微笑みつゝ、

『百合こそ有難迷惑だらう、莖が皆んな折れて仕舞つて居るのに違ひない。あれほど堅い莖があんな風に曲がる筈がない。」

然し、雨が止んだ時に、番兵は其兒がまた急いで行つて一つ〳〵其百合の花を起してやつたのを見ました。驚いた事には何の苦もなく莖は眞直になつて一本でも花が破れたり莖が折れたりしたのはありませんで、牧場は再び百合花の美しい野に復しました。之を見ました番兵は何とも云へぬ腹立しい氣分になりました。

「何て奇妙な兒なんだらう！　何にでも妙な事をするなあ、今にどんな者になるだらう、百合の花一本でさへ雨の打つに任せる事が出來ないとは。若しも斯んな兒が戰に出る樣になつたらどうするだらう、もしも女子供が數多住んで居る家を燒けとか、船員が數多乘組んで居る舟を沈める樣にとか、上官から命ぜられたら何うするだらう」

再び彼は昔の預言を思ひ出して歎息し、

「此處に居る樣な斯樣な子供が居るから嫌な平和時代が間近に來るのかも知れない。いや、もう、平和の風が地上に吹き亘つて、戰爭の暴風なんか再び吹きはすまい。これから後は全の人民はみな此兒の樣な心になつてお互に人を傷ける事を恐れ、たとひ一疋の蜂でも一本の百合の花でも、蹂躙るやうなことをする者はなくなる。偉大な仕事を爲す者もなくなれば、光輝ある戰勝を得る者もなくなり、光榮ある執政官が議事堂に繰込むと云ふ樣な事もなくなつて勇敢な人が待焦れて居る樣な勇ましい事は何にも起らなくなるだらう」

此年月の間、戰爭に出て霰と散る彈丸の中に大した戰功を立て巨萬の富を作らうと考へて居た番兵には、此小さな三歲位な子供が腹立たしくなつて來てその次より子供が來た時には、彼は槍をふり上げて威嚇して追返してしまいました。

東京女子青年會のクリスマス

小篠端子

遠きベツレヘムに牧者と博士が始めてこれを見奉りし日から早や二千年になつた。然し西に東に北に南に此よき福音の傳はる處、何處とても此救主の降誕を祝はぬ國とてはないのである。其一端を分け與へられた私共も此喜びにかなふ祝賀會を催したいのはまた私共

の心の誠からである。

二十一日の午後七時から三つの寄宿舎が一所になつて神田の女子青年會館で祝賀會を催した。其夜は米國で長らく御勉強になりマスターの學位を得られた岩澤時子女史の御講話があつた。其お話の大意は私共は徒らに其喜びを一人で專有するのではなく貧しい者に惱める者に同じ幸を分け與へるのがキリストに捧げる第一の獻物ではあるまいかと云ふのであつた。靜肅なる集の後、私共は心を披いて互に相睦み面白い餘興の數番で共に嬉しい樂しいクリスマス祝賀會の一夜を送つた。

二十二日の夕は本部の幹事東京横濱の幹事三寄宿舍の舍監旅行者の友、好友團の係員や本部支部の事務員總數二十八名で會館の三階の食堂で晩餐を共にしやがて二階の應接間に下りて來た。

室の中からオルガンの音がゆるやかに流れて來る。間もなく左右の扉がさつと兩面に開かれた。正面の欄間は額の如く青い葉や赤い實で縁どられ、中にメリクリスマスと紅の字が浮いて居た。綠の葉の間から仄にみゆる金色の鐘は今にも鳴り出しさうである。彼方此方の點々たる蠟燭の火は何事をか語る如く瞬いて居る。オルガンの音につれ、床しい香とまがふ樣な花の香が室内に滿ち溢れた。やがて河井先生を先に私共は口々に讃美歌を唱へつゝ、あとに小い蠟燭を持てつゞく。其蠟燭に大蠟燭の火が點ぜられた。皆はやがて各々の席についた。何と云ふ莊嚴であらう。自分は遠き昔の寺院の中にでも居るかの如くに感じた。一同座について後、河井先生の熱烈な御感話とミス・マシューの眞實な御すゝめがあつた。「此事業は神より與へられたものである。少しの困難や苦痛の爲に之を空しく棄つべきであらうか。今日本の私共同胞の狀態は沈みかゝつた船とも云へやう。水は帆柱まで來て居る。其危い一の柱につかまつて只自分一人の事のみ考へて居るのである、此危機に私共はあたら望みの綱を手にしつゝも恐しい怒濤をおちて空しく佇づむのではあるまいか廣ひ野原の暗夜の道しるべする燈となるのは我々の務ではなからうか。今自分の目の前に瞬く蠟燭の光で、やがては私共の表號であるよし力が弱くとも智慧は足らずとも我々の後には萬能の神が守り給ふではないか」跪いて祈を捧げつゝ夜は靜に更けて行つた。

二十三日の午後二時からは下の會場で本會員諸姉の祝賀會があつた。出席者は百人餘渡邊百合子姉の司會の下に式を行つた。河井先生の御講話は今又新しく主を迎へる心地して私共は一つの固い決心を與へられた。今も尙キリストは私共の中に生き給ふて「己れを愛する如く汝の隣人を愛すべし」とさゝやいて居られるのである。後でクリスマス歌劇があつた。キリストの御誕生を牧者が野で天使から告げを蒙るところから博士等が寶物を獻げて歸る迄若い人等の熱心な心はこゝにも現れて陰で歌つた讃美歌と共に眞に美しく見られた

英語社交會のクリスマスは二十六日の夜六時半から二階の應接間で開かれた。電燈の光をさけてわざと蠟燭の火は淡く瞬いて居るクリスマスの木や美しい花は取々に室を樂園の樣に色彩つて居る。赤い暖爐の火は古代を偲ばせる。ミスハードの御話が始る頃には流木が赤く青く燃えて居た。私共の目の前には古い他國のクリスマスの樣がいくつか現はれる。珍しいロシヤ婦人の合唱は實に美しかつた。ミスヘツホンのお話にも大喝采、ミスマシユーのサンタクロースが出られた時共々其變裝の御上手なのに奇異の目をみはつた。種々のクリスマス祝賀會も夢の樣にすぎて行つた。神は又新しき年を與へ給ふのであるから私共は此大切な日一日を左の金言を目的として進みたいと決心した。

「兄弟よ我自ら之を取りと思はず惟この一事を務む、即ち後に在るものを忘れ前にあるものを望み神キリストイエスによりて上へ召して賜ふ所の褒美を得んと標準に向ひて進むなり。」（ピリピ三ノ十三、十四、）

頌　歌

エホバよわれ汝をよばふ願はくは速に我に來り玉へ(詩篇一四一)
すべて主をよぶ者に主は近くいます也。(詩篇一四五)

ブラウニング夫人作
松　榮　譯

聖主しあらずは我ら善きを爲すことなく、
聖主ともに在さば惡を爲すことあらねば、
幸にも禍にも、わざにも心にも、
共にあらせ玉へ。

幸のときには我らの脣が、
「與へ玉ふ聖主を告白するとき、
我らは謙りたる心もて、
「取去り玉」ふ聖主をば憶えまつらんため。

わざはひの時には――我らの心が喜をば、
溢るゝ斗りの涙の中に棄つるとき、
誰がかかる水をば酒にかへ得玉ふかを
我らの憶え居らんため。

眞晝時には――我らの足の、
丘と谷とを越えて走るとき、
我等はなほ眞理の光明の
太陽よりも更に歡ばしきを思はんため。

夜半には――大氣の、
露と影とを生めるとき、
我らなほ野の沈默のうちに、
神のみ聲をききまつらんため。

かくて眠は死のごとく我らの上に來る、
すべて音なく、聞くことなく、深し。
主よ、眠のごとく死の來り得んため、
まもりて祈ることを我らに敎へ玉へ。

肉と魂との合へる間、
我らゝ共に宿り玉へ、我らと共にやどり玉へ。
かくて我らの肉の單塵埿となるとき
我等の魂を聖主と共にやどらしめ玉へ。

俳　句

猿　男

下町や閑かに暮るゝ羽子の音
突かすある飾り手鞠や箱の中
人浪や寶恵籠つゞく橋の上
青疊試筆の墨のはねてけり

小預言者（五）

横田貞治

哈巴谷書（上）

十二小預言者研究の順序として、先きに論ぜしアモス、ホゼアの次にミカ、ゼパニヤ及ナホムを學ばねばならぬのであるが、講演回數の都合上それを省く事とする。然かし一言にして云へばミカはイザヤと同時代の預言者にてイザヤの都の預言者なるに對して鄙の預言者である。テコアの西方十七哩の所モレセテガテの人である。其預言は北國イスラエルには偶像禮拜に對する批難であつて、南國ユダに對しては重に富者權者祭司預言者等上層の人民への攻擊である。ゼパニヤはエレミヤの預言し初めし頃預言せしものである。其祖父にヒゼキヤなるものあり、これが若しヒゼキヤ王であるとすれば、彼は王の血統のものである事を確かむるのである。其預言の特徵は全世界に審判の日來るを宣言せし事である、而して其審判は啻に人類のみならず鳥獸魚類にまで及ぶとす。ナホムはエルコシ人にしてアッシリヤの首府ニネベの陷落に就いて預言せし者である。

× × × ×

ハバクとは如何なる人であるかに就いて二三傳說なきにあらねど、歷史上の價値疑はしき故これを略す、我等は唯其預言の示す所を學べば足るのである。

其預言の時代は、まづ第一囚移と第二囚移との間に見るべきであらう。北國イスラエルは既に百數十年の昔に滅亡し、南國ユダ又同一の運命に陷りて既に民の或者はバビロンに捕虜となりて連れ行かれしと云ふ心細き悲觀すべき狀態にある時の預言である其預言を知る爲めに此書の註解を概略試みる事とする。

第一部一章一節——二章四節

預言者とエホバとの問答

ハバククの預言はエホバとの問答體にて初まつて居る。これ此書の獨特の所と云ふべきである。凡ての外部的事情は、眞に悲觀すべきもので、果して神の攝理の手が働きつゝあるものか否か。かゝる懷疑の暗黑時代に於て、預言者は心を靜め直接に神に尋ねて其解決を得んとするのである。第一節に預言の重負とあれど原文にては單に重負とあるのみである。之は擧ぐると云ふ言より來る擧ぐるは聲を擧ぐるに通じ預言と云ふ意味に取らるゝ事となるのである。

此第一部を細別して五つとす。

(一)一章二節——四節　預言者の悲觀「何時まで惡者旺んなるや」

何故に國內に兇暴奪掠爭論行はれ、公義消え去りしかエホバは助け給はざるか、これを審判き給はざるかとは預言者の煩悶である。此惡者とは誰を指せしか。ユダの國民中の橫暴者を云ひしものか、其れ或は然らん。然かしアッシリヤであるらしくもある。先きにサモス、ホゼアもアッシリヤの來るを見て、これエホバの刑罰なりと云つた。ホゼアの如きは、此刑罰によりてイスラエルは敎へられ訓練され潔めらるゝのであると考へた、イザヤの如きはアッシリヤをエホバが此民を罰する爲め送りし其使であるとまで稱した。アッシリヤは來た。

されど終に果して何にをか爲せしや。彼等の持ち來りしものは兇暴奪掠鬪爭のみして又他事なきなり。果してことを奈何。

(二)一章五節——十一節　「觀よ既に審判の使カルデヤ人を遣れり」

エホバは今や信じ得ざる程の驚くべき一事をなさんとす。即カルデヤ人を興こさんとす。カルデヤ人とはバビロン人を云ふ。其猛き强き有樣を此處に描いてエホバの審判の使に相應せるものなる事を示す。

(三)一章十二節――十七節　預言者の懷疑益々深ふせらる「然らば何故此カルデヤ人のかく殘虐を擅にするを看過し給ふや」

カルデヤ人はかくユダの兇暴なる壓制者を滅ぼす爲めに起こされしとして、然らば果して此カルデヤ人のかくも殘虐なるは抑も如何。十四節――十六節はバビロン人がユダの民を魚の如く取扱ふを云ふ、十四節の昆蟲は水棲の小動物を云ひしなるべし。十六節彼等は其殘虐の武器を神としてまでも崇拜す。十七節果して斯くの如きが永遠に續くものならんか

(四)二章一節　預言者只管にヱホバの著を待望む。觀望所と云ひ高樓と云ふも必ずしも預言者が實際の塔に昇ほりしと云ふのではない。其預言的想像の塔に上ぼつて瞑想したのであらう。今まではハバククは他の同國民の中に立つて其の煩悶をヱホバに訴ふるが如き形にあつた。されどヱホバの解決を容易に得られなかつた所の第二の疑問に對しては、一人高く瞑想の域に進まねばならぬ。我等も時に其時代を超越せねば神の心を了解せずして徒らに懷疑の念に閉ざさるゝのである。

(五)二章二節――四節　ヱホバ著「義人は信仰によりて活くべし」

預言者は終に此有名なる神の言を得たのである。此句は羅馬書一章十七節加拉太書三章十一節希伯來書十章三十七節等に引用せられて不朽の文字となつて居る。併かしながら此信仰と譯されたる文字は新約聖書に於て普通解釋せらるゝ神に信賴する心或はキリストと一つたるの心を語るfaithを云ひしにあらずして寧ろfaithfulneesの意である、眞實とか忠信とか忍耐などと解すべきである。故にこゝの意味は、義人如何に其外部の事情や社會の狀勢が日に非であつても、其神に對して忠實であり堅固なるに於て、幸福勝利の意識を得べし。「生くべし」とは神の祝福を意識して生存すると云ふ。又こゝに義人とあるは恐らくユダの民を指せしものか。彼等はヱホバを知らざる異邦の民に對して比較的に宜しいと云つてよいのである。

この所はハバククの預言の絶頂に達せしものにして實に其根本思想を此處に見出だすのであるこれより後は單に後始末をつけたと云ふに過ないのである

彙報

○横濱女子青年會　昨年十二月中に本會を一般に紹介かた〴〵二回の講演會を開きたり、一回は日本人、一回は外國人を招待したり。何れも豫想外の盛會なりしは感謝に堪へず。今回新に役員を選擧し益々會の基礎を鞏固にするを得たり。其の新任役員は左の如し。

會長　室原富子　副會長　ミセス、フレザー
會計　野村みち子　書記　藤田貞子
總幹事　ミス、レーガン　移民講習部員　吉田糸子

又常務員は左の如し

岩木かつ子　二宮わか子　西川千代子
吉川とゑ子　高木すゞ子　成田千代子
室原富子　野村みち子　山田修子
ミセス、フレザー　ミセス、ブレーク　藤田貞子
ミセス。ネート　湯淺いと子　杉田みち子

○東京女子青年會　東京女子青年會にては去る一月四日支那人の新年會を催し出席者二十五名なり、女子大學教授麻生正藏氏の講話あり、一同欣びにみちて散會したり。又た十八日には寄宿舍及好友園委員會ありたり。

○徳島女子青年會　當地四國徳島女子青年會も御蔭樣にて追々より成りつゝあることを感じ實に嬉しく存ます去十二月十六日は女子青年會相談會を催し來年度の事に就き定めました當日深く會を知り正會員となつて、會の爲又會の聖き働の爲盡くさんと決心せし者三十四人あり其後會員の樣子も餘程進みし事と覺えます何卒感謝と共に當會員の爲御祈り願ひ上げます、又河井先生の御盡力により成つた私共婦人の集も續けて開きます實に樂しい麗しい集で會の殖える毎に集の樣子も向上し整頓して參ります御休中には來年度の働の準備を充分に致し先生方の御留守をよく守ります。高橋久與樣は此一週間以前から徳島風土病(胃腸熱)に罹り入院して居られますが極輕いのでしたから最早一兩日には御退院で此處へ御歸へりになります。休中には出來る丈の看護をして上げ樣と樂しんで御待ちして居ります。凡ての事感謝し與へられた務を盡さんと日々努て居ます。

○清流女學校青年會　名古屋市なる清流女學校にては今回青年會を組織し、支部として同盟を本部に申込み來りたり、何れ二月の中央委員會にて承認することゝなるべし。

○東崎夫人の篤志　北米加州桑港にて日本人の母と稱せらるゝ同夫人より今回本會に宛て金森先生著『信仰のすゝめ』五十部を寄附せられたり。本會は其の厚意を深く感謝し夫人の本旨に背かず信仰奬勵の爲求道者に贈呈すべし。又た本會支部へも特別の場合に限り一部宛を寄贈すべし。受納者は書籍到着後本會に宛て禮狀を送られなば本部より直ちに同夫人へ廻送すべし。

○寄贈品の謝狀　靜岡縣小山町富士紡績會社內病院に勤務の横山きち子姉に宛て此頃受洗の女工に贈らんため本會より新約聖書十二冊を寄贈せしに今回同姉より左の禮狀ありたり

聖書を澤山御惠與下され重ね〳〵御禮申上候、去十二月二十一日に第一、二工場內に於て降誕祭執行致し誠に嬉しく存候、出席者四百名位有之候小山工場中第一番の阿婆摺女と評判され居候女工が救はれて今日では實に善良の者と相成候事嬉しき事多く御座候此者にも頂戴致候聖書の一部を與へ候間本人よりも御禮申上ぐる事と存候

又昨年の降誕祭に際し「女子青年界」十二月號を求道者諸姉へ寄贈せしことは曩に記載したる如くなるが中の千葉縣山武郡の蕨福子姉の如きは早速本會會友を申込まれ又京橋南鍋町の桐とめ子姉などよりは禮狀を寄せられしが今回又廣島市大手町の甲田きみ子姉よりも左の通り來狀あり。

御親切に有益なる讀物を御送り下され有難く厚く御禮申上候最高の理想を抱き其を現實せんと努力致し居る者に候如何なる誘惑に遇ても信仰を得た後の私は安全とにて凡てを失ひ絶望した時にも尙神の愛を感ずる事の出來る樣に相成候へ共未だ弱き自己は苦しみ之を抜け出して全く洗滌されたる心に成り度と思ひ毎々上京して勉學致し度と存候

○留學生優待同志の願　支那其他より日本に來遊中の幾多留學生諸子に對し、何等か盡す所なければ相濟まぬと、多年御互の心に懸けて居つた宿題でありますが、兎角紹介の機會尠く、意思疏通の便乏しいため、極少數者の外は不本意ながらつい其儘に放任の態ともなつて居りました、然るに丁度此事に都合の好き一人が昨年から東京に居つて、同志に代り親く幾百留學生の友となり、樣々の奉仕的斡旋をなす傍ら、同志數十名の家庭にも便宜數名づゝ紹介して互に隔なく、個人的の友誼を交へしめたので、玆に多少交際の端緒開かれ、意思の疏通も漸く行はるゝ樣になつたのであります。

別段政治、利害、名譽などの見地からでなく、寧ろ人情の自然、人道の動機から、時々諸子を吾人の家庭(茶話會等)に迎へ、聊か信

願すべき友となり、顧問となり、慰藉奬勵者ともなつて、遠來留學の篤志に酬ゆることは、頗る肝要の事であつて、又吾人のなし得べき範圍の事に屬すると思ひます。

勿論是は個人的行事であつて、敢て世間に吹聽する筋のものではありませぬが、何卒之を繼續し、幸に有力なる先覺同感諸賢の好意に依りて、漸次三四千留學生の間に、最善の友誼同情を普及せしむる樣擴充したきものと、切に期待致す所からして、特に貴下迄、左の通り具體的の願件を呈します。

一、來る一年間に一回或は以上家庭に於て留學生茶話招待會を催さるゝ事

一、來る一年間に之が繼續助成資金として一口金五圓或は以上の寄與せらるゝ事

一、來る一年間に同感の御知人間に右兩者の中と紹介給はる事

大正五年十二月

同志代表者　新渡戸稻造、吉野作造、植村正久、井深梶之助、益富政助、フイシヤ、山本邦之助、小崎弘道、日疋信亮、船尾榮太郎、丸山傳太郎(常幹者)

消息

○河瀬さと子　上海病院に向け一月九日神戸より解纜

○佐波澄江子　植村正久先生の長女なる同姉は一月上旬女子出產惠子と命名母子共壯健

○福島美代子　東京會員なる同姉は一月三日男兒出產太義と命名。

○岡本翠子　弘前女學校に教鞭を取らるゝ同姉は冬休を東京の兩親の下に送らる。

○弘瀬晴子　靜岡女子師範學校より冬休を期し上京兩度本部を來訪さる。

○陶山圀子　平素病人看護に忙しき同姉は一日の暇を得て本部を訪問さる、多忙の人なれど心身常に壯健。

○古谷たまき子　好友園に永らく保姆の任に當られたる同姉は結婚の爲今回辭職。

○陶山百合子　古谷姉の後任として一月より好友園に働かる、同姉は陶山圀子及米子姉の令妹なり。

○櫛田孝子　大阪に數ケ月赴任され居りしが今回歸京、目下の住所は牛込納戸町女子青年會寄宿舍。

○久保田馨子　東京青年會寄宿舍に宿舍中の同姉は一月十四日九段教會に於て受洗。

○藤浦初音子　一月岡山井原女學校より姫路日ノ本女學校に轉任。

○吉田晴枝子　米國タコマ市にて數年來本部の同情者たりし同姉は夫君と共に七十餘名の觀光團を引連れて歸朝され一日本部を來訪

○中村艷子(舊多賀)　岡山を辭し目下東京府巢鴨宮下一六四六に住居。

○ストラウス夫人　靜養の爲當分相州小田原幸町一ノ一三九土方とし子氏方に轉地。

○米人幹事　米國より友邦印度に派遣さるゝ幹事三名は赴任の途次東京に二日間滯在本部寄宿舍を訪問さる。

○加藤貞子　加藤高子氏令妹は十二月三十一日午前四時富山縣氷見實科高等女學校寄宿舍に於て腦膜炎にて永眠。(本部記事參照)

○戸富わか子　普賢寺轍吉氏令姪女子英學塾に勉學中なりしが盲腸炎にて一月十日永眠。

○白井胤錄氏　數年以前本誌に屢々寄稿されたる文士なりしが十二月末永眠。

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共	內地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	金八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
全頁	金六圓
半頁	三圓五拾錢
四分一頁	金二圓
一行	金參拾錢

半歳又は回數により割引有

大正六年一月廿八日印刷納本
大正六年二月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督敎女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

For the marvelous spirit of devotion, heroism, and sacrifice manifested by the students of warring countries,

For the seriousness of the students in the lands not at war, and for the growing volume of the service they are rendering.

For the work of Christ in the military training camps, in the soldiers homes, in the hospitals, and in the prisoner-of-war camps, and for the splendid manner in which these helpful activities are being promoted by leaders and members of the Student Christian Movements.

For the National Student Conferences held during recent months in all parts of the world, gatherings characterised by great spiritual power and fruitfulness.

For the larger plans on behalf of the students Of Latin America, as a result of the Panama Congress which did so much to focus thought and prayer upon this neglected part of the student world.

OBJECTS FOR INTERCESSION

Let us pray for the leaders of the Christian forces at work among students, that in every land they may enlarge their plans and that they may with more purpose of heart devote themselves to relating the students of the world to Christ and to His program.

That the Christian students in the armies, in the hospitals, and in the prison camps may perceive and exemplify their Christian ideals and show forth the spirit of Christ.

That the universities may be saved from drifting into the zone of pessimism and that Christian students and professors everywhere may sound out the distinctive not of Christianity, the note of hope.

That all our Christian Movements may address themselves with more wisdom and power than heretofore to the removal of the causes of class bitterness, international strife, and racial prejudice.

That Almighty God may soon usher in a just, righteous, and durable peace.

That the work for schoolboys may be greatly augmented, in order to make up for the terrible carnage which the war has caused in the Christian ranks in the universities.

That preöccupation with the great struggle in Europe may not prevent our recognizing and improving the day of our visitation in Asia, Africa, and Latin America.

That the leaders of the Student Movements may be given foresight and patience to prepare for the larger tasks which will confront them after the war.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XVI | FEBRUARY, 1917 | NUMBER 2

" There are 43,000,000 men on all sides of this world war. Never in any previous war have there been more than 2,000,000. In the single battle of Ypres there were more men lost than in the entire Civil War. 3,700,000 men and boys have been killed. This does not count the 5,000,000 men in hospitals, nor the even greater number of hopelessly maimed and diseased. There are also about 6,000,000 men in the prison camps, mainly in Russia, Germany, Austria and Siberia." Many of these men are students.

" For many years the Christian Student Movements thoughout the world have chosen the last Sunday in February as a day when prayer should be offered, especially for men and women in the centers of learning. The present time calls again for the solemn observance of this day. Never before have students been in graver peril of their souls. It is with a sense of the awful peril of students and of the responsibility to meet their deepest needs that the officers of the World's Student Christian Federation appoint Sunday, February 25, 1917, as the universal Day of Prayer for students, and call upon Christians of every name and in every nation, particularly upon those who are members of universities, colleges, and higher schools, to join in prayer on that day for the students of the world.

On the one hand is danger to life and threatening disaster to the soul; on the other, high courage, devotion to duty, splendid enthusiasm for the service. The destiny of many nations and the progress of humanity are involved in the issue of this conflict of forces. The outcome rests not alone with the participants, but the responsibility is shared by those who, through active sympathy and earnest intercession, may uphold them in their time of fiery testing.

On behalf of the General Committee of the World's Christian Student Federation,

Karl Fries, Chairman.

John R. Mott, General Secretary."

GROUNDS FOR THANKSGIVING

Let us thank God for the fact that the World's Student Christian Federation still holds, notwithstanding the impossible strain of the war.

新刊

■倉長魏著
ヨハネ傳五十講
定價 上八十錢 並九十錢 郵稅八錢

■ポーターI作 弘中つる子譯
パレアナ
表裝美麗 定價八十錢 郵稅八錢
原作一年ならずして二十版を重ぬ。面白く有益なる家庭小說。クリスマスの贈物に好適す。

■シムプソン著 中澤正七譯
人生の事實
定價 上七十錢 並五十錢 郵稅八錢

■グサーツン著 武に寅代藏譯
山上說教
著者十餘年の研究になりし好著なり。
定價五十錢 郵稅二錢

■大井一郎著
耶蘇基督
定價二十錢 郵稅四錢

■エインズレー著 岩元三郎譯
神と我
定價十五錢 郵稅二錢

■ベルトオ著 赤星仙太譯
我子の生立の記
定價三十錢 郵稅四錢

■バークレー著 岩村清四郎譯
教師及教授法
定價二十錢 郵稅二錢

新しき傳道叢書

■植村正久著『耶蘇の學校』定價二錢
■同 上『人生と宗教』定價三錢
■大笠海軍大佐著『我が信仰と基督教』定價六錢
■山本工學士 谷津理學博士 大工原農學博士共著『科學と信仰』定價二錢
何れも趣味深く有益なる文學、時代に適當せる傳道小册子なり

新しきトラクト

■『眞の平和』
■『眞の救』
■『眞の教』
■『神との交通』(大江壽美子述)
■『潔き家庭』(江原素六述)
■『理想的社會』(石原 謙述)

定價 千部 壹圓五拾錢 (郵稅共)

發行所 東京市京橋區明石町八番地 日本基督教興文協會

發賣所 警醒社、教文館、基督教書類會社、福音書店、丸善書店、岩波書店

女子青年界第拾五卷第二號（毎月一回一日發行）
大正六年一月廿八日印刷納本　大正六年二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可